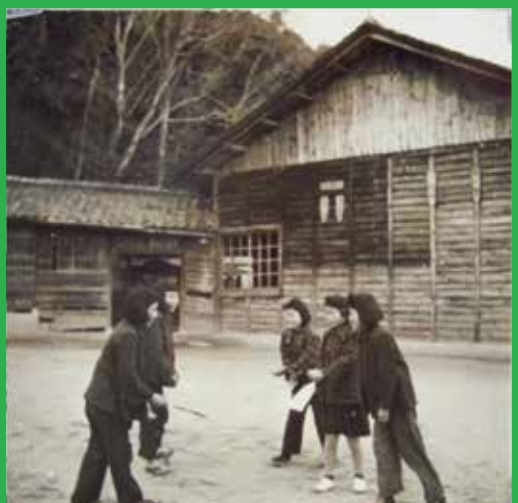
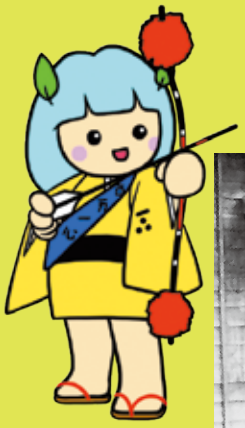
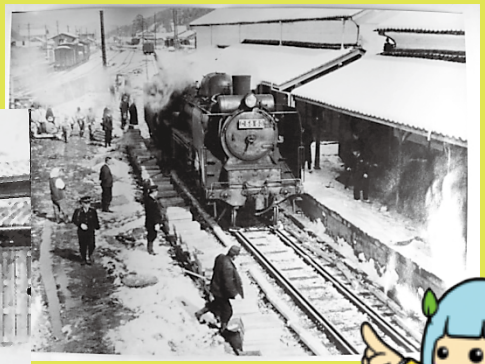
第４章　歴史発見！安芸高田

安芸高田市にはどんな歴史があり、今の私たちの生活につながってきたのか調べてみましょう。



右の年表は安芸高田の歴史をまとめたものです。わたしたちが今生きている時代から見ると，遠い昔の時代から人々はこの安芸高田の地で生活していたことがわかっています。安芸高田の人々がどのようなくらしをし，そのくらしが時代とともにどのように変わっていったのか学んでみましょう。





1　安芸高田歴史年表

時代	日本のおもなできごと	安芸高田のおもなできごと
旧石器	・採集や狩りによって生活する	・旧石器が見つかる
縄文	・石器や土器がつくられる	郡山大通院谷遺跡（吉田町） 杉の原遺跡（高宮町）　大迫遺跡（八千代町）
弥生	・米づくりが日本各地でおこなわれるようになる	青迫遺跡（甲田町）　新迫南遺跡（高宮町） 坂中組遺跡（向原町）　植谷遺跡（高宮町）
	・邪馬台国の卑弥呼、魏に使者を送る（２３９）	稲山墳墓（四隅突出型墳丘墓）（吉田町） 国司池の内遺跡（吉田町）
古墳・飛鳥	・聖徳太子が摂政になる（５９３）	甲立古墳（甲田町） 新宮遺跡（八千代町）白鳥古墳（高宮町） ・６～７世紀にかけ市内に千以上の古墳がつくられる
	・大化の改新（６４５）	中馬古墳群（吉田町）　土師大迫古墳（八千代町） 山部大塚古墳（吉田町）　戸島大塚古墳（向原町）　一ツ町古墳（向原町）
奈良	・平城京遷都（７１０）	・吉田町中馬に寺院建立（明官地廃寺）
	・平安京遷都（７９４）	・向原町長田に寺院建立（正敷殿廃寺）
平安	・平氏滅亡（１１８５） ・平清盛太政大臣になる（１１６７）	高田郡・高宮郡内に荘園ができる
鎌倉	・源頼朝、征夷大将軍になる（１１９２）	
	・足利尊氏征夷大将軍になる（１３３８）	・佐々井厳島神社の玉殿つくられる（１４世紀前半） ・祇園社（現清神社・吉田町）建立（１３２５） ・毛利時親、安芸下向（１３３６）
室町	・応仁の乱（１４６７） ・鉄砲伝来（１５４３） ・キリスト教伝来（１５４９） ・織田信長、室町幕府を滅ぼす（１５７３）	・郡山合戦（１５４０・４１） ・毛利元就誕生（１４９７）
安土・桃山	・本能寺の変（１５８２）	・毛利氏、尼子氏を降伏させ中国地方を統一（１５６６） ・毛利元就死去（１５７１） ・毛利氏、羽柴秀吉と講和（１５８２） ・毛利輝元、郡山城の修築、城下の整備を指示（１５８４） ・毛利氏、広島城に本拠を移転（１５９１） ・毛利氏、周防・長門に減封
江戸	・豊臣秀吉、天下統一（１５９０） ・関ヶ原の戦い（１６００） ・徳川家康、征夷大将軍になる（１６０３） ・大坂夏の陣（１６１５） ・島原の乱（１６３７） ・享保の改革（１７１６） ・ペリー浦賀に来航（１８５３） ・大政奉還（１８６７） ・戊辰戦争（１８６８）	・福島正則、安芸・備後を拝領 ・三次支藩誕生（１６３２） ・上甲立村が三次支藩領となる ・吉田に御茶屋（藩の接待所）建つ（～１７２０） ・喉声忠左衛門、水路を完成させる（１６６５） ・河野与三郎、「へらほりの池」を作る（１６７４） ・だんじり屋台始まる（１６７４） ・「安芸国高田郡図」完成（１７１６） ・享保大飢饉。高田郡内に餓死者多く出る（１７３２） ・高田郡各村に社倉（穀物倉庫）できる（１７８０） ・土生玄碩将軍家奥医師となる（１８１０） ・郡山城跡の南麓に「御本館」が建てられる（１８６４）

2　原始・古代の安芸高田

安芸高田市にもたくさんの古墳がつくられています。みなさんの町の古墳を調べてみましょう。

どうして古墳は，つくられるようになったのだろう。

（1）稲山墳墓（四隅突出型墳丘墓）吉田町下入江

↑四隅突出型墳丘墓イメージ図
（出雲市史跡ガイドより）

吉田町下入江にある稲山遺跡で見つかった稲山墳墓は，弥生時代後期とみられる四隅突出型墳丘墓であることがわかりました。この型の墳丘墓は，安芸高田市内では，初めてとなる発見です。

全国では，中国山地，山陰，北陸地方に100 墓以上が発見されています。県内では 19 例目となるものです。調べてみると四辺のうち，西側のようすが明らかになりました。２ケ所の突出部とその間の墳丘の裾に石が並べてあり，斜面に２～３段の石をはりつけてあったようすを見ることができます。

（2）甲立古墳　甲田町上甲立

航空写真（安芸高田市HPより）

甲立古墳　後円部検出状況(上から)

甲立古墳は，これまで菊山西側の尾根につくられた柳ヶ城跡（戦国時代の国人領主：宍戸氏の城と伝わる）の一部とみられていました。

平成 20 年 1 月に前方後円墳であるということがわかりました。その後の，測量や古墳から出た埴輪のようすからみて広島県でも数少ない大型の古墳とわかりました。甲立古墳が造られたのは，４世紀後半期でとても貴重な前方後円墳であることから，平成22年１月には，安芸高田市史跡に指定されました。

甲立古墳予想図

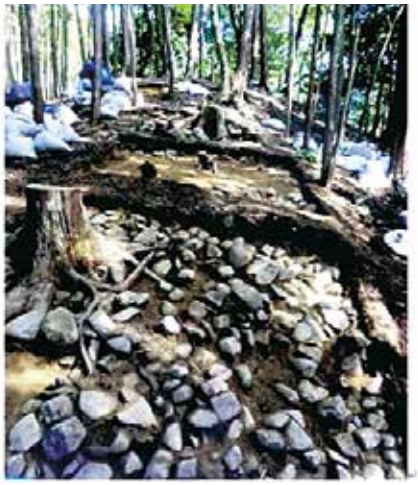
さらに古墳の全体のようすをはっきりさせるため，平成 22 年から４年間古墳をくわしく調べました。調べた結果，古墳の斜面の葺石（古墳をおおっている石）は，全体的によく残っていて，後円部の頂上も含め保存状態はとてもよいことがわかりました。

甲立古墳出土家形埴輪調査風景

４世紀後半にも、甲立にはすでに人が生活していたね。

特に，後円部には大きく長方形に掘られた墓壙（木棺や石室がある穴）があり，この東側には，家形埴輪を並べた埴輪祭祀（神や先祖をまつった儀式）がうかがえる石敷遺構，それらの頂上の周りを埴輪で囲んであったことなどとても貴重な古墳のようすを確認することができました。古墳の全長（中心で計測）は，調査では約77mを確認しましたが，（県内第２位の大きさ・前期古墳に限ると県内最大）設計した大きさは80mをこえる古墳として造られています。また，古墳の段築は，後円部３段，前方部２段となっています。甲立古墳の特徴として墳丘やち密な埴輪の造り，家形埴輪を置く祭祀跡（神や先祖をまつった儀式跡）など畿内（奈良を中心とする近畿地方）で多くみられる古墳とよく似た古墳といえます。

■古墳全長：約77.5m
後円部径：約56m（最大長），高さ：最大約15.3m・後円部7.4m
■段築：後円部３段・前方部２段
■出土遺物：円筒埴輪，楕円筒埴輪，朝顔形円筒埴輪
：家形埴輪・蓋形埴輪，短甲形埴輪　舟形埴輪
■古墳の時期：４世紀後半



家形埴輪の出土

葺石（古墳をおおっている石）のようすがわかります。

※墓壙　亡くなった人の遺体を埋葬するために掘った穴

朝顔形の円筒埴輪の出土のようす

甲立古墳から出土した朝顔形埴輪の破片を集めて元の形に復元した写真です。

円筒埴輪が出土している様子がわかります。

後円部の周りに埴輪が並んでいた様子がわかります。

古墳は，豪族などがほうむられただけでなく埴輪などの副葬品もいっしょにおさめられました。

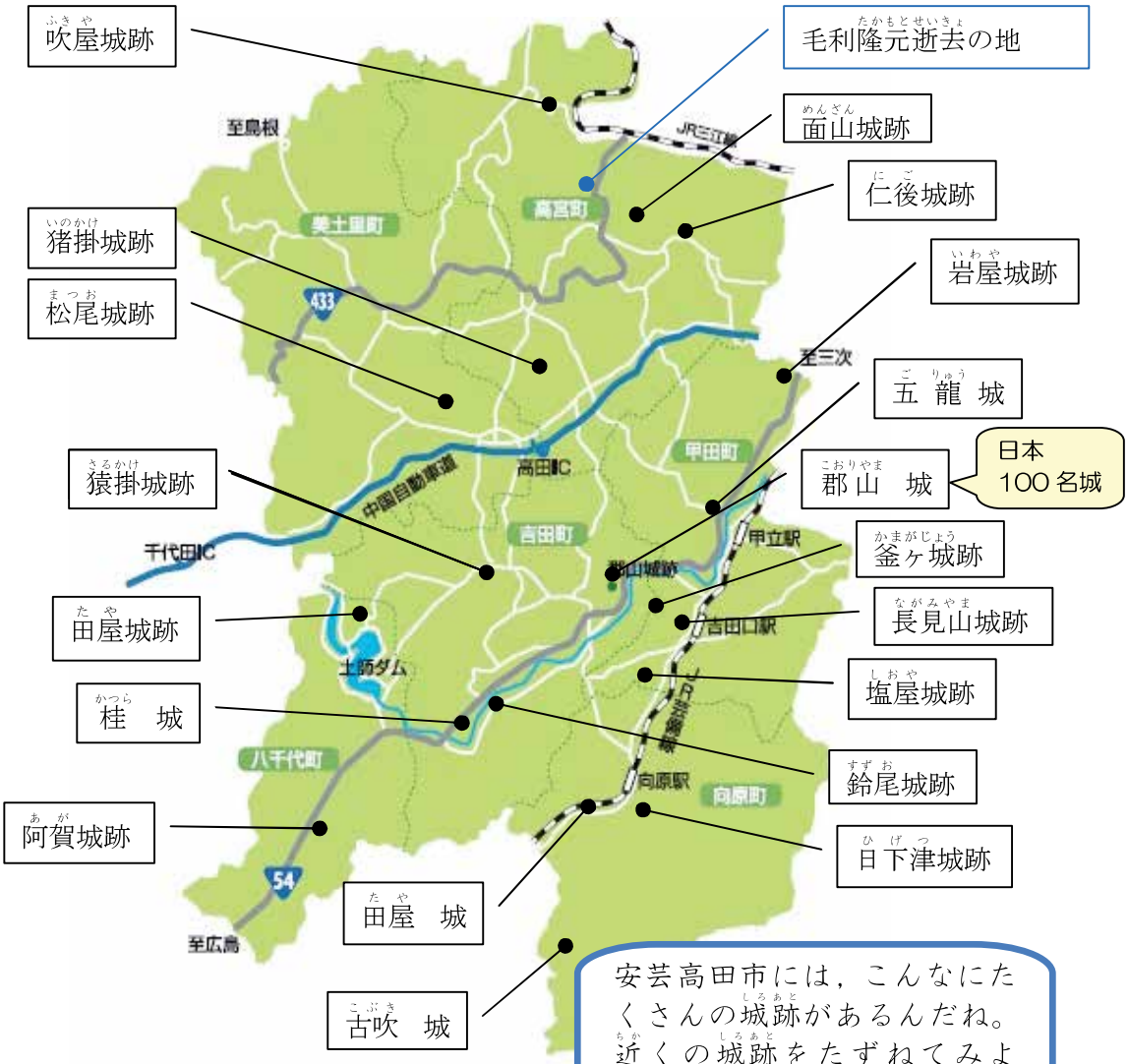
（3）　安芸高田市の古墳マップ

自分たちの町の古墳（こふん）について調べてみましょう。

3　中世の安芸高田

日本中で武士による争いが行われていた時代，吉田町に一人の武将が誕生しました。後に中国地方全域を治めることになる毛利元就です。毛利元就はどのような生涯を送ったのでしょうか。毛利元就の生涯と戦国時代の安芸高田市の様子について調べてみましょう。

（1）安芸高田市の城跡マップ



安芸高田市には，こんなにたくさんの城跡があるんだね。近くの城跡をたずねてみよう。

※毛利隆元逝去の地
　毛利元就の長男隆元は，41歳の若さで急死しました。
※郡山城・・毛利元就が生涯居城とした城です。
※鈴尾城・・毛利元就が誕生した場所として伝えられています。
※猿掛城・・毛利元就が27歳まで過ごした城です。

（2）毛利元就の中国地方統一

毛利元就は「戦国の雄」とたたえられた戦国の武将です。1497 年，安芸の国吉田（現在の安芸高田市吉田町）に生まれ，75歳で病死するまで 200 回以上におよぶ合戦を行い，中国地方を統一しました。

（安芸高田市歴史民俗博物館より）

＜毛利元就年表＞

年（数え歳）	出　来　事
1497 年	毛利弘元の次男として誕生。
1501 年（5 歳）	母死去。
1506 年（10 歳）	父死去。
1511 年（15 歳）	元服。
1516 年（20 歳）	兄興元死去。その長男幸松丸（２歳）家督を継ぐ。
1517 年（21 歳）	初陣（有田合戦）に勝利。武田元繁を討ち取る。
1523 年（27 歳）	長男隆元誕生。 幸松丸死去。元就家督を相続し，郡山城入城。
1524 年（28 歳）	元就殺害計画がわかり，弟元網を討つ。
1530 年（34 歳）	次男元春誕生。
1533 年（37 歳）	三男隆景誕生。
1534 年（38 歳）	宍戸隆家（五龍城）に娘をとつがせる。
1537 年（41 歳）	大内氏（山口）へ長男隆元を人質に出す。
1540 年（44 歳）	郡山合戦。
1542 年（46 歳）	大内氏の尼子攻めに従い出雲に向かったが，翌年敗退。
1544 年（48 歳）	三男隆景，小早川家の養子に入り，小早川家を継ぐ。
1545 年（49 歳）	妻妙久死去。
1546 年（50 歳）	長男隆元に家督を譲る。
1547 年（51 歳）	次男元春，吉川家の養子に入り，吉川家を継ぐ。
1553 年（57 歳）	隆元の長男輝元誕生。
1555 年（59 歳）	厳島合戦。
1557 年（61 歳）	大内氏を滅ぼす。 隆元，元春，隆景に「三子教訓状」を与える。
1562 年（66 歳）	石見を平定し，石見銀山を手に入れる。
1563 年（67 歳）	長男隆元急死。輝元が家督を継ぎ，元就が後見人になる。
1566 年（70 歳）	尼子氏降伏。中国地方を統一する。
1571 年（75 歳）	郡山城で死去。

注）家督…一家の主としての権利　　元服…大人として認められること

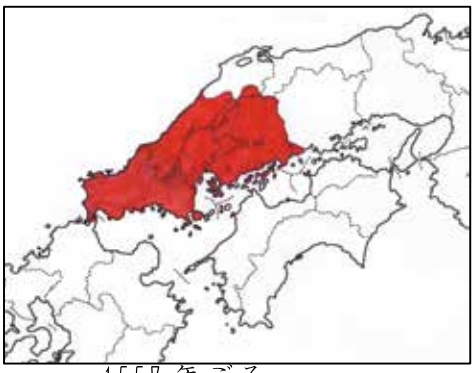
■勢力分布の移り変わり

1523 年ごろ

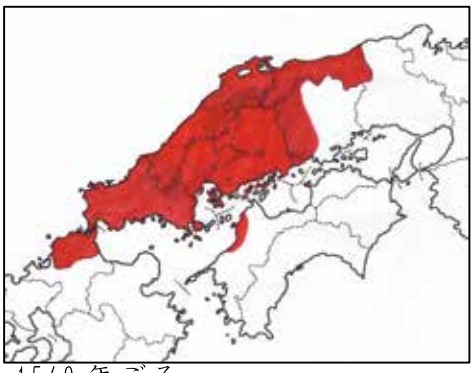
1530 年ごろ

1541 年ごろ

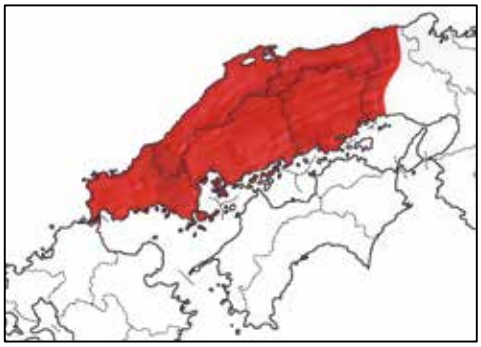
1554 年ごろ



1557 年ごろ



1569 年ごろ



1578 年ごろ
（元就死後，織田信長と交戦中）

わずか一代でこんなに勢力を広げたんだね。どうやってこんなに大きくしたのかな？

■主な合戦

全国で争いが行われていた時代，毛利元就は，領土を広げるためにさまざまな手を打ち,領土を拡大していきました。

①有田合戦

1517 年，安芸（現在の広島県）の守護だった武田元繁は 5000 余りの兵を率いて有田城（北広島町）を攻め，さらに毛利領の多治比にも攻め込んできました。そこで，当時多治比の猿掛城主だった元就は，1000 余りの兵で武田軍と戦いました。数の上では圧倒的に不利であった元就ですが，弓矢の一斉射撃で敵の大将である武田元繁を打ち取って勝利しました。この戦いは元就にとっての初陣（初めての戦い）です。捨て身の戦法で大軍の大将を討ち取ったこの合戦は，織田信長が桶狭間で今川義元の大軍を打ち破った奇襲戦法にも似ているので，「西国の桶狭間」とも言われています。この戦いにより，元就の名前は広く安芸一円に広がりました。

②郡山合戦

1540 年，出雲の尼子詮久（後に晴久）が３万の大軍を率いて元就のいる郡山城を攻めてきました。迎え撃つ元就の兵力は 2400，尼子軍の 12 分の１にしかすぎませんでした。しかし，元就は見事な作戦で幾度となく尼子軍を撃退し，大内氏の助けも借りて，５か月後に尼子軍を出雲に撤退させました。

③厳島合戦

大内義隆を討って大内氏の実権を握った陶晴賢と毛利元就は，いつしか対立するようになりました。晴賢が大軍を率いて攻めてくるのは目に見えています。これを迎え撃つ毛利軍は 4000 あまりで，まともに戦えば勝ち目がありません。そこで，元就は，陶晴賢の大軍を狭い厳島におびき寄せるために，厳島におとりの城（宮尾城）を築きました。元就の作戦にまんまとはまった晴賢は，２万の大軍を率いて厳島に上陸し，厳島神社周辺に陣を張りました。

晴賢に気付かれないように暗がりの中，ひそかに海を渡った元就は，包ヶ浦に上陸し，山を越えて陶軍に奇襲をかけました。同時に海からも三男隆景の部隊が攻撃を行い，５倍の敵を見事に打ち破りました。

■百万一心碑

毛利元就が郡山城を大きくするとき，人柱にかえて石に「百万一心」と彫らせ，それを埋めたと伝えられています。郡山城跡にあります。

百万一心を分けると「一日一カ一心」とも読め，一日一日を，一人一人が力を合わせて，心を一つに協同一致して事を行うことを教えたものといわれています。

■三矢の訓

元就が，ある日，長男の隆元・次男の元春・三男の隆景の３人を枕許に呼び出しました。元就が，まず１本の矢を取って折って見せると，簡単に折ることができました。続いて矢を３本束ねて折ろうとしましたが，これは折ることができませんでした。元就は，「１本の矢では簡単に折れるが，３本にまとめると容易に折れない。兄弟３人がよく結束して毛利家を守って欲しい。」と告げ，息子たちは，必ずこの教えにしたがうことをちかいました。これが「三矢の訓」といわれているもので，兄弟の結束を説いた「三子教訓状」がこの話のモデルになっているといわれています。

■毛利元就公像

私の姿を見たことはありませんか？みなさんが合宿などで利用する安芸高田少年自然の家のすぐ近くにあります。

■百万一心の話

このお話は，元就が郡山城を広げる際に人柱にかえて「百万一心」と彫らせた大きな石を埋めたと**語り伝えられているもの**です。

毛利元就がまだ１２歳で松寿丸と呼ばれていたころのこと，家来といっしょに厳島（宮島）の管弦祭に行きました。そこで，いよいよ祭りが始まろうとしたその時，「かえしてよう，おっかさんをかえしてよう。」という小さな女の子のさけび声が聞こえてきました。泣いているわけを聞いてみると，母と二人で旅をしている途中にとなりの国の城を築いているそばを通りかかった時，母と娘がとらえられ，城造りの人柱にされることになったそうです。母は，娘だけは何とか助けてほしいと手を合わせて頼み，自分だけが人柱となって埋められてしまったということでした。松寿丸も幼い時に父と母を失っていました。だからきっといっしょに泣きたい気持ちになったのでしょう。その女の子を自分の城に連れて帰りいたわってやるように家来に言いつけました。

それから，15，6年あまりの年月がたちました。松寿丸は毛利元就と名乗って，吉田町にある郡山城の殿様になりました。城を大きくすることになって，石垣を築くことになったのですが，困ったことがおきました。本丸の石垣が何度築いても崩れるのです。すると，「人柱を入れなければいけない。」という声がささやかれるようになりました。そのころのならわしとして，大きな工事には人柱をたてることが行われていたのです。城を築いたり土手をつくったり橋をかけたりするのに，すんなりと一度でできればよいのですが，できないときにはきまって人柱という言葉がささやかれました。うっかり言い出して，わが身を埋められる者もありました。何日の何時に通りかかった者と決めて待っていることもありました。通りかかった旅の者をとらえて埋めることもありました。郡山城は何度も石垣が崩れるので，工事の責任者（奉行）は人柱を埋めることに決めました。選ばれたのは，あの時の娘です。「お殿様に助けていただきました身の上にございます。あのままで捨てておかれましたなら，どこかでのたれ死んでおりました。喜んで人柱になります。」娘はそう言いました。奉行からこのことを聞いた元就は，「明日，かわりの者をつかわすゆえ，あの娘を人柱にたててはならぬ。」と言いました。奉行は，かわりの者とはだれであろうと思いながら，殿様の前をさがりました。

次の日，元就は「百万一心」と書かれた紙を奉行にわたしました。「この文字を石にほって，人柱のかわりに埋めよ。人の命は尊いものだ。人柱などもってのほかのこと，心を合わせ，力を合わせてことにあたれ。」と教えました。

郡山城もたち，元就は，中国地方一の大名になりました。この「百万一心」の石と同じように造ったものが，現在元就の墓所にたっています。

4　近世・近代の安芸高田

みなさんの住んでいる町の様子や人々の暮らしのうつりかわりについて調べてみよう。

（1）安芸高田市の移り変わり

関ヶ原の戦いの後，江戸時代になり，中国地方をおさめていた毛利氏は周防・長門（今の山口県）に移されました。その後，広島藩がおさめることとなった高田郡は，広島湾沿いの地域と石見・出雲（島根県）を結ぶ交通の重要な場所となりました。また，広島近郊の農村地帯として発展し，一番多いときには，高田郡には 61 か所もの村がありました。

その後，明治22（1889）年４月市町村制の実施により高田郡内の 59 か村が合併し，26 か村となりました。

明治32（1899）年からは郡制がしかれ，大正15（1926）年まで吉田に郡役所が置かれました。昭和時代になると戦前戦後をとおして何度も合併・編入したり，分かれたりを繰り返したのち，昭和48（1973）年からは吉田町，八千代町，美土里町，高宮町，甲田町，向原町の６町となりました。そして平成になり，さらに市町村合併により，平成16（2004）年３月１日に高田郡６町が合併して，広島県で 14 番目の市である「安芸高田市」が誕生しました。

郡役所の写真です。役所の建物は，吉田町の西土手にありました。みなさんの町には，いくつ村がありましたか。調べてみましょう。

高田郡役所（吉田町）

■交通の移り変わり

昭和 33（1957）年の甲立駅
（安芸高田市歴史民俗博物館提供）

江戸時代，明治時代の交通といえば徒歩と川船によるものでした。

このころの出雲街道（今の国道 54 号）では，人が荷物を荷車で運んでいました。江の川（可愛川）では，川船がさかんに通り，たくさんの荷物を運んでいました。

しかし，大正時代になると運送は，荷車・荷馬車から貨物自動車，オートー三輪，乗合自動車（バス）に変わりました。

当時は，バスや鉄道が主な交通手段でした。駅は貨物列車や鉄道を利用する人々でにぎわっていました。

芸備線が開通した大正４(1915)年
（安芸高田市歴史民俗博物館提供）

鉄道は，大正４（1915）年に広島～三次間に芸備線が開通しました。芸備線の開通により鉄道でたくさんの荷物が運ばれるようになりました。

上の写真は，甲立駅（今のＪＲ甲立駅）に貨物列車が着いた写真です。駅ができたことによって甲立駅のまわりには，人や商店が集まるようになりました。

地域の人から鉄道やバスが通るようになったころのようすをインタビューしてみましょう。

■商店街のうつりかわり

昭和 31 年ころの吉田町商店街（安芸高田市歴史民俗博物館提供）

昭和 40 年代に入ると日本は高度経済成長の時代を迎えました。

安芸高田市内でも木造の校舎や役所もコンクリートの建物に建てかわってきました。商店街も変わり，看板や照明も新しくきれいになり，たくさんの人でにぎわうようになりました。

しかし，昭和 50 年代になるとどの家庭でも車で出かける時代になりました。安芸高田市のとなりである三次市や広島市に大型店ができるようになると，商店街のようすも変わってきました。

商店街の移り変わりについてみなさんの町でインタビューなどをして調べてみましょう。

（2）ダム建設で水没した土師

昭和 40 年代に入り，江の川の洪水調節，広島市とその周辺の町へ飲料水を送るために八千代町土師にダム建設が計画されました。

ダムの建設には，８年の期間と 100 億円の建設費をかけ，昭和 49（1974）年に完成しました。土師ダムに水没した家は，203 戸，田や畑は約 100 ヘクタールです。ダムの堰堤は，高さ 50 メートル，長さ 330

メートル，総貯水量4,730万トンで広島県最大のダムです。

このダムのおかげで洪水によって川が氾濫することも少なくなりました。

土師ダム

今では，ダム湖周辺の公園も整備され，春は桜，秋は紅葉と多くの観光客が訪れています。また，毎年８月には安芸高田花火大会が開催され多くの人でにぎわっています。

（３）昭和20～３０年代のころの子どもの遊び

昭和20年代，農家では和牛や馬を飼って農耕に利用していました。農繁期には，家族総出で農作業をしていました。学校は，一週間くらいの農繁期の休みがあり，子どもたちも農作業を手伝っていました。

米を収穫した後は，麦を植えていました。ふだんから子どもたちは草刈り，牛の世話，すい事，子守りをすることはあたりまえのことでした。

昭和30年ころの川遊びの様子

（安芸高田市歴史民俗博物館提供）

今のように物がたくさんある時代ではないので主食は，麦ごはん，みそやしょうゆは自分の家で作っていました。子どものおやつは，柿や栗など自分の家の庭や山になる果物などでした。子どもたちは，いつも里や野山で遊び，遊ぶ道具を作って遊んでいました。そのころの子どもの遊びは次のようなものがありました。

当時は，学校にプールはありません。子どもは，川で水泳や水遊びを楽しんでいました。

昭和２８年ころの子どもの遊びの様子

（安芸高田市歴史民俗博物館提供）

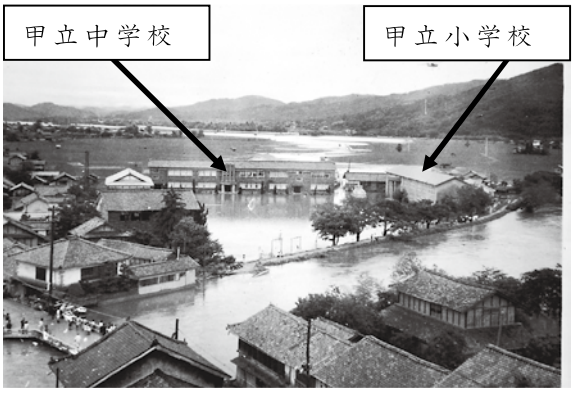
チャンバラ　戦争ごっこ　探検
ごっこ　川遊び　雪遊び　すもう
野球　パッチン　まりつき
ままごと　羽子板

また，子どもたちはお祭りや花田植えなど地域の行事をとても楽しみにしていました。

子どもたちの遊びや生活について調べてみましょう。

（４）自然災害に見まわれた安芸高田市

■大雨による洪水被害　昭和 33（1958）年７月



五龍山から五龍橋をのぞむ（甲田町上甲立）

増水した多治比川（吉田町吉田）

昭和 33（1958）年７月に安芸高田市は，大雨による洪水に見まわれました。上の写真（左）は，甲田町上甲立を流れる本村川がはんらんして付近が浸水したようすです。写真の中央には，当時の甲立中学校と甲立小学校校舎とグラウンドが水につかっている様子が写っています。上の写真（右）は，吉田町の多治比川がはんらんした様子です。

安芸高田市は，土師ダムができるまで台風や大雨による洪水被害にあうことがいく度となくくり返されました。

また，昭和 47（1972）年７月にも，これまでにない集中豪雨が安芸高田市を襲い，尊い命が失われるほどの大災害となりました。

■昭和３８（1963）年豪雪

昭和 38 年豪雪　向原町有留の様子
安芸高田市歴史民俗博物館提供

昭和 38 年豪雪　高宮町川根の様子
安芸高田市歴史民俗博物館提供

みなさん、安芸高田市にもこんなに大雪が降りました。雪の重みに家が倒れたり、交通が途絶えたりするなど大きな被害が出ました。

（5）東京オリンピック聖火ランナー　国道 54 号を走る

今から 50 年前，日本で東京オリンピックが開催されました。その聖火リレーが国道 54 号を通りました。東京オリンピックの 20 日前の９月 21 日，８時 25 分に広島県庁を出発し，島根県赤名トンネル入口に 16 時 56 分に到着する計画でした。八千代町は，午前 10 時 45 分に聖火を受け取り，当時の聖火ランナーと一緒に八千代町立八千代中学校の生徒 120 人が１区間 20 人ずつ６区間走ったそうです。聖火リレーは，スタート時間が分単位で決められており，そのために毎日のようにあぜ道を走り，20 人で列をそろえて練習を繰り返したそうです。

昭和 39（1964）年 9 月 21 日　国道 54 号（八千代町）の様子

安芸高田市歴史民俗博物館提供

山本絹江さん提供

山本絹江さん提供

安芸高田市八千代町うどん店経営　山本絹江さんの話

「2020年に開催される東京オリンピックの聖火リレーがあれば、当時の同級生と５分でいいから走りたい。」と再び日本にやってくる聖火を心待ちにしています。伴走時の写真を店に掲げ、当時の八千代中学校の生徒や沿道の応援の様子を町内外の人に伝えています。ぜひ、見に来てください。